

## 心理発達相談外来について



とんぼ小児科医院では15年以上前から、子どもの心と発達相談外来を行っています。この外来では、ことばの発達が遅い、落ち着きがないなどの2～3歳から就学前のお子様から、不登校や注意欠如多動症などの学童期のお子様まで数多くの相談を受けています。院長は日本小児科医会の「子どもの心の相談医」の資格をもち相談を受けています。今回は、子どものこころと発達相談外来についてお話しします。

### 1. 「子どもの心の相談医」とは？

日本小児科医会（日本中の小児科医の集まり）が主催する心理や発達の研修会を受講した小児科専門医に認定される制度です。小児科専門医資格を取得している医師しか受講できません。認定後も5年に1回の更新があり、新しい知識を学んでいます。

### 2. どのようなことを相談したら良いですか？

#### 1) 三歳頃まで

##### ①言葉の遅れ

言葉は1歳頃に1つの単語がで始め、1歳半頃から急に増えて2歳頃には「○○、ちょうだい」など2語文が出るようになります。2歳半になっても2語文がなければ少し心配です。

##### ②人や物に対する関心

1歳半から2歳頃になると、指をさして「あれを見て」、「あれが欲しい」などの指さし行動が始まりますが、これが全く無いと少し周囲への関心のなさが気になります。

同じ年頃の児と一緒に遊ばず、一人遊びをしているときも心配です。

##### ③感覚過敏、こだわり

赤ちゃんの時から大きな音にすぐに泣いたり、知らない場所になかなか慣れずに大泣きを続けたり、光を非常にまぶしがったり、くるくる回るものをずっとみたりするのも気になります。

#### 2) 三歳～就学前まで

##### ①多動

この年代のお子さんはもともと活発ですが、少しも目を離すことができず、パッと飛びだし、いつも交通事故の心配をしないとイケないときは、注意欠如多動症の特性を考えます。

##### ②園での行動

園での行動でいつも人よりワンテンポ遅れて行動するときは、先生の話しを聞いていなくて注意力が散漫なのか、理解力に問題があることになります。早めに、相談しましょう。

##### ③5歳児健診

臼杵市では5歳児健診として、年中児のお子様の様子を観察するために、すべてのこども園、保育園を心理士、保健師、教育委員会が協力して園巡回をしています。そして、園巡回後には皆で話し合い、早めの支援がどうか判断しています。

園巡回の前には、ご家族と園の先生から別々にアンケート調査を行い、ひとりひとりの様子や心配事を事前に把握していますので、精度の高い対応ができています。

これが、小学校での合理的配慮をした教育につながっています。

##### 3) 学童期

平成28年度に文部科学省から教育現場では、ひとりひとりの困りごとにあった配慮（合理的配慮）をするように通達がありました。臼杵市でも、学校と教育委員会との連携で合理的配慮に基づく就学支援シートを毎年作成し、支援しています。現在は、臼杵市小中学校全体で210名を超える児童に支援シートを作成しています。これは全生徒の8.1%になり、10人に1人に近い数です。

